



ULTRA DRIVE (Windows 版)

ユーザガイド

Last update 2016.01.15

Ver.2.1.7

■ ULTRA DRIVE とは

インターネット上（クラウド）に大切なデータを保存することが出来る便利なアプリケーション（オンラインストレージ）です。

■ 本資料について

ULTRA DRIVE サービスは、マイナーバージョンアップ等もあるため、実際のクライアントと本資料に差分が発生する場合があります。

■ 更新履歴

日付	版	更新内容	備考
	1.0.0	初版作成	
2016.01.15	2.1.7	全体修正	V1.0.9

目次

1. 動作環境	4
2. アプリケーションのインストール方法.....	4
3. アカウント設定	8
4. Windows 版クライアントの機能	10
5. Windows クライアントから利用できる機能	11
6. ファイル・フォルダのアップロード.....	12
7. ファイルのダウンロード.....	13
8. ファイル・フォルダの移動とコピー.....	14
9. ファイル更新履歴の利用方法	15
10. ファイル更新履歴の上限数変更.....	17
11. 操作履歴の確認	19
12. アクセスチケットの生成（フォルダ/ファイルの公開）	21
12.1. フォルダの公開.....	22
12.2. ファイルの公開.....	23
12.3. アクセスチケットを用いて ULTRA DRIVE にアクセスする方法.....	24
13. アクセスチケットの管理（フォルダ/ファイル公開の管理）	25
13.1. フォルダやファイル単位のアクセスチケット管理	25
13.2. フォルダやファイルに設定済アクセスチケットの一元管理	27
14. ごみ箱の利用	28
15. ローカルデータのバックアップ.....	31
15.1. バックアップツール	32
15.2. 手動バックアップ	34
15.3. バックアップデータの復元.....	36
15.4. バックアップデータの削除.....	38
16. Sync（同期）機能.....	39
16.1. 同期設定の確認.....	40
17. ショートカット機能.....	41
18. プッシュ通知機能.....	43
19. 利用容量の確認	44
20. 新規ファイルの作成と編集（テキストファイル）	45

21. パスワードの変更.....	46
22. 仕様に関してのご注意事項	47
22.1. 拡張子がないファイルについて	47
22.2. バックアップ機能について.....	47
22.3. プロキシ サーバーが設定されている場合	47
23. 既知の問題	48

1.動作環境

- パソコン（OS、CPU 等）

HDD：10MB 以上の空き容量

OS：

Windows Vista 32bit・64bit、Windows 7 32bit・64bit、Windows 8 32bit・64bit、
Windows 8.1 32bit・64bit、Windows 10 32bit・64bit、Internet Explorer 9 以上
いずれの場合も NET Framework バージョン 2.0 以上が必要です。

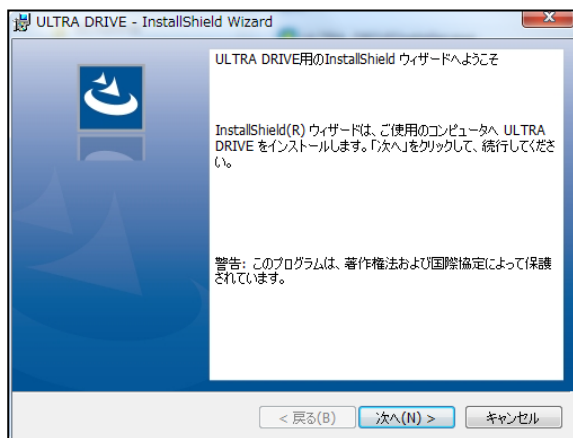
※ Windows は Windows Update でシステムを最新の状態にした上でご利用ください。

2.アプリケーションのインストール方法

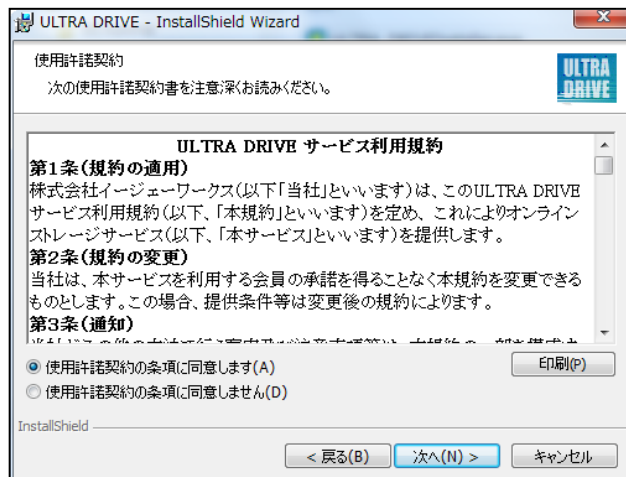
- ① 下記の URL にアクセスして、インストーラをダウンロードします。

URL http://user.ultradrive.jp/installer/win/ULTRA_DRIVEInstaller.exe

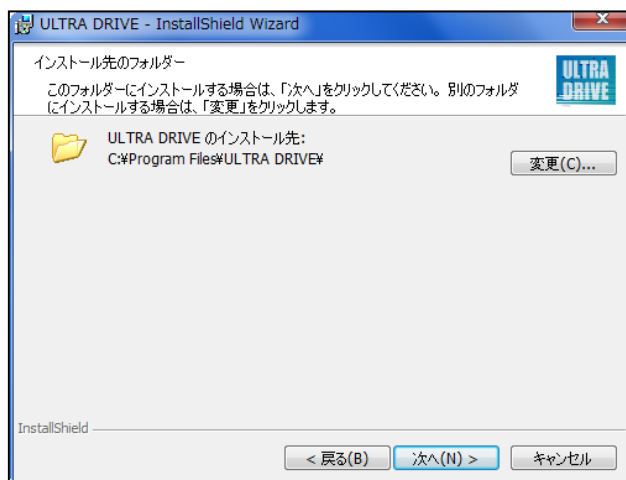
- ② ダウンロードしたインストーラをダブルクリックし、セットアップウィザードを起動します。



- ③ セットアップウィザード画面が表示されるので「次へ」をクリックします。

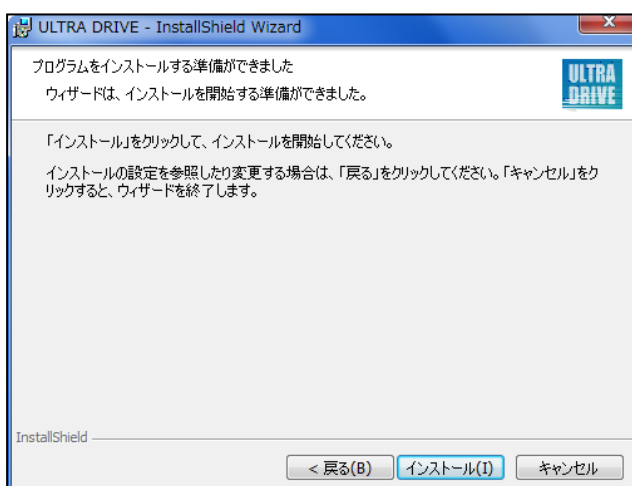


- ④ 「使用許諾契約書」の「同意する」にチェックを入れ「次へ」をクリックします。

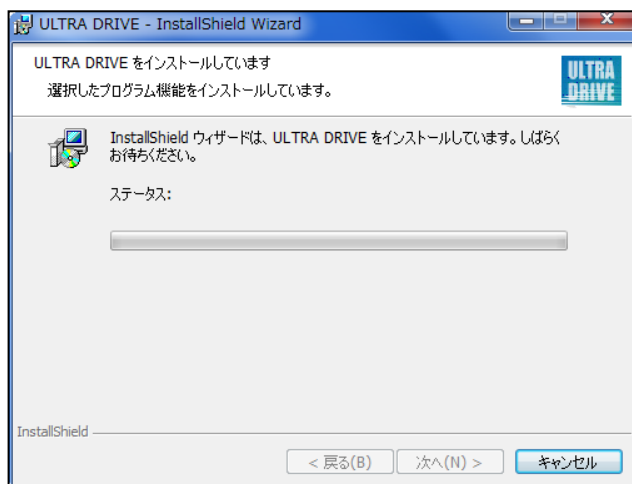


- ⑤ 「インストールフォルダの選択」画面が表示されるので任意のフォルダを選び「次へ」をクリックします。

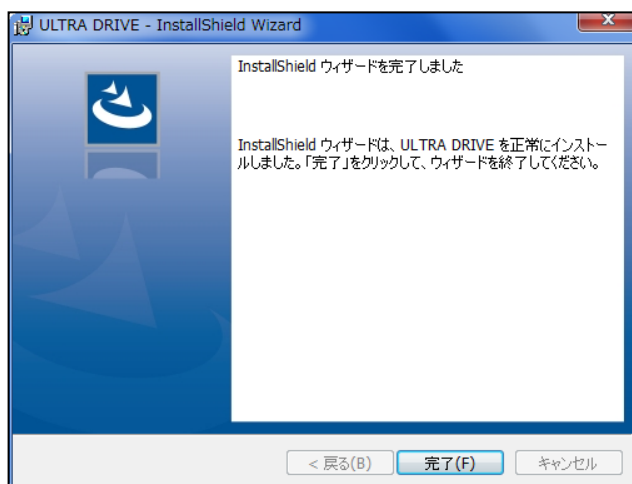
※ ご注意：インストール先として、「C ドライブ」以外を設定することはできません。



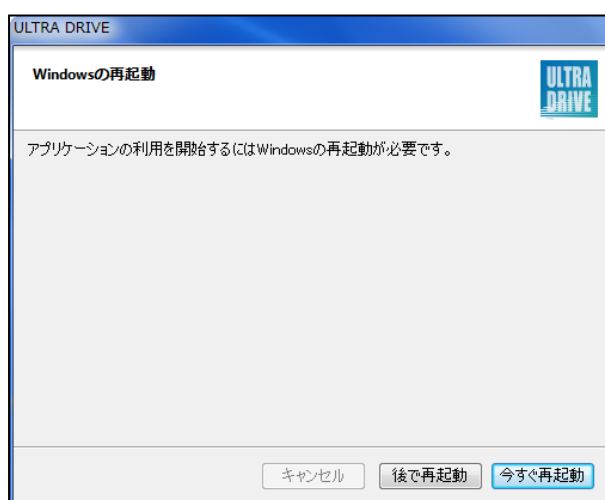
- ⑥ 「インストール」をクリックします。



⑦ インストールが開始されます。



⑧ インストールが完了します。「完了」をクリックしてインストール作業を終了します。



⑨ インストールが完了すると、再起動を要求されるので問題なければ、「今すぐ再起動」をクリックします。

※ご注意：インストール後に再起動を行わないと、アプリケーションは正しく動作しませんので、必ず、再起動してください。

- ⑩ インストールが完了します。初期値の通りにインストールした場合の設定は以下の通りです。

Windows Vista/7/8 の場合

項目	内容
インストール先 フォルダ初期値	C:\Program Files\ULTRA DRIVE\ULTRA_DRIVE.exe
同期データ 保存先	C:\Users\<Windows ユーザ名>\ULTRA DRIVE \<ULTRA DRIVE アカウント名> \Sync
スタート メニュー	① 「ULTRA DRIVE」のショートカットアイコン  ② 「すべてのプログラム」→「ULTRA DRIVE」→プログラムへのショートカットアイコン、及び アンインストールアイコン
デスクトップ	プログラムへのショートカットアイコン 
通知領域 (タスクトレイ)	通知アイコン 

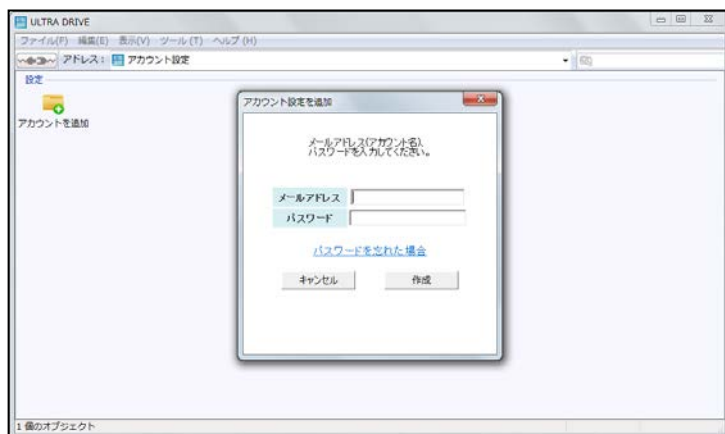
3.アカウント設定

ULTRA DRIVE のログイン情報をアプリケーションに設定します。

《アプリケーションを起動》

- ① 通知領域のアイコンのダブルクリック、デスクトップのショートカットのダブルクリック、スタートメニューからの選択いずれかの方法で ULTRA DRIVE を起動します。

《アカウント設定を追加》

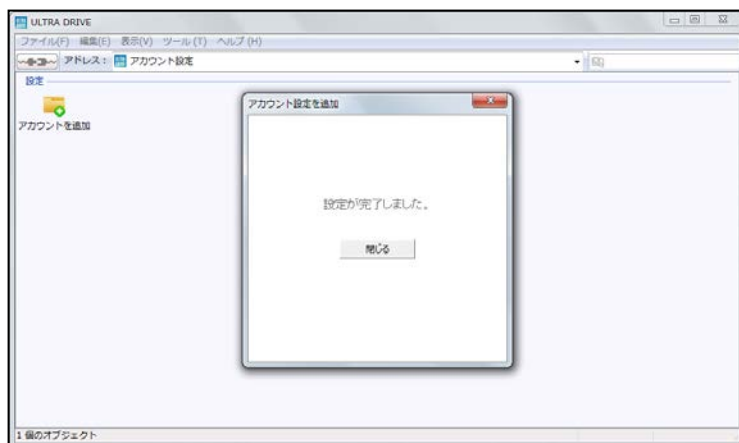


- ② 起動すると、「アカウント設定を追加」ウィンドウが表示されます。以下の情報を入力し、「作成」ボタンを押します。

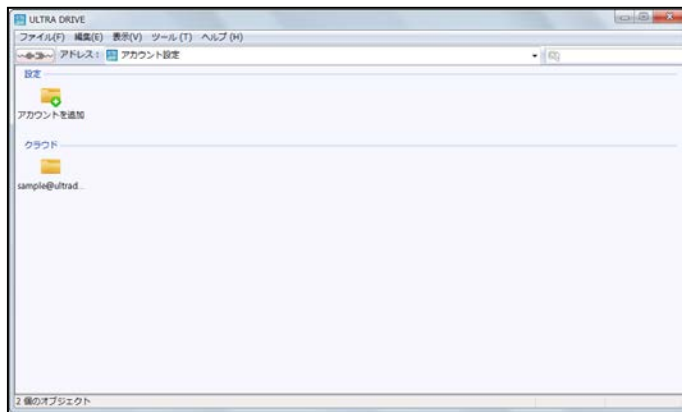
「アカウント設定を追加」ウィンドウは、「アカウントを設定」アイコンをダブルクリックすると表示されます。

《登録情報》

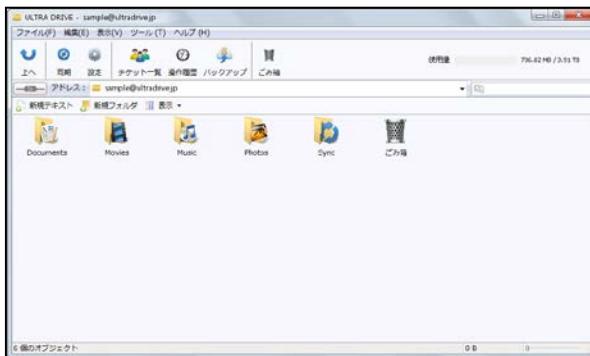
メールアドレス	ULTRA DRIVE ID
パスワード	ULTRA DRIVE パスワード



- ③ 設定が完了した場合、左のような画面になります。「閉じる」をクリックします。



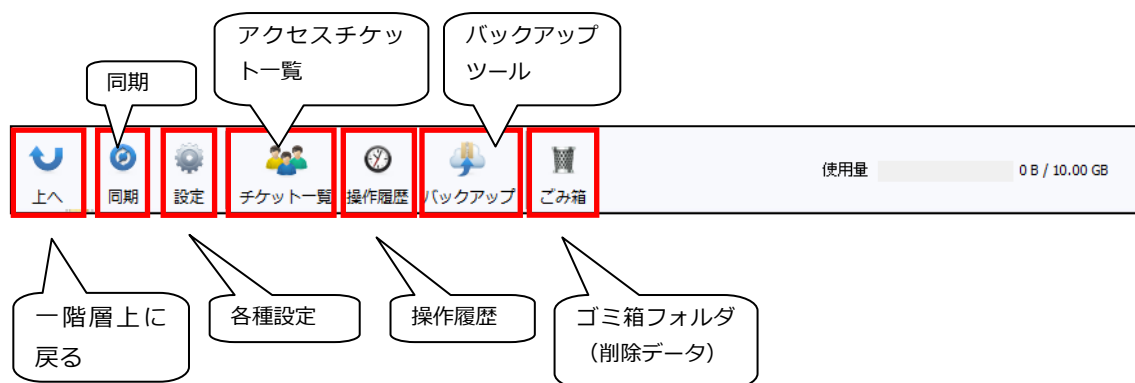
- ④ 「アカウント設定」画面に戻ります。「クラウド」欄に、ULTRA DRIVE ID と同じ名前のアイコンが追加されます。クラウド上のファイルを参照する際には、このアイコンをダブルクリックします。



- ⑤ ご契約者様のディスクのトップ画面に移ります。

4.WINDOWS 版クライアントの機能

«ファイル一覧画面のアイコン各機能»

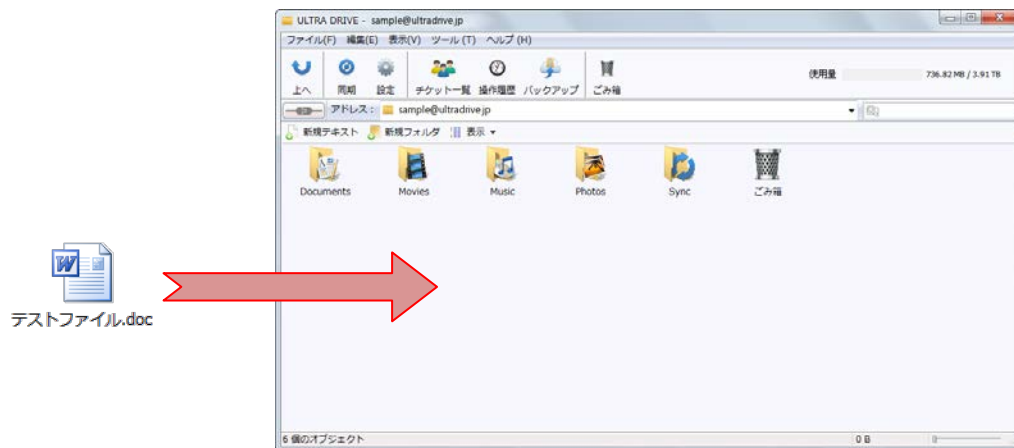


5.WINDOWS クライアントから利用できる機能

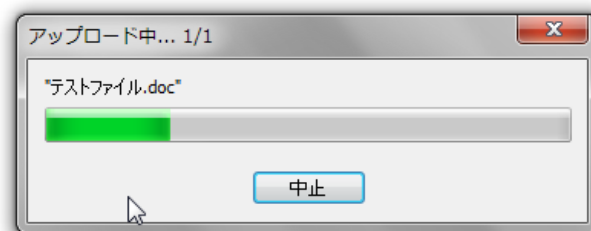
①	ファイルのアップロードとダウンロード	ULTRA DRIVE に ファイルをアップロード/ダウンロードします。
②	転送確認（ファイルのアップロード状況）	ULTRA DRIVE にファイルをアップロードする際 進捗状況が確認できます。
③	ファイル・フォルダの移動とコピー	ULTRA DRIVE上で任意のファイル/フォルダを移動/コピー出 来ます。
④	ファイルの更新履歴の管理	内容を変更したファイルを上書きアップロードした際 旧ファイルの情報を保持し、復元できます。
⑤	操作履歴の確認	どのような操作をしたか、履歴を確認できます。
⑥	アクセスチケットの生成（フォルダ/ファイルの 公開）	フォルダやファイルを公開します。 パスワード、ダウンロード上限、公開期限といったアクセス制 限を設定できます。
⑦	アクセスチケットの管理（フォルダ/ファイル公 開の管理）	公開したフォルダやファイルを一覧表示します。 不要になったアクセスチケットの削除や、パスワード、ダウン ロード上限、公開期限といったアクセス制限を再設定できます。
⑧	ごみ箱の利用	不要なファイルやフォルダをごみ箱に入れることができます。 削除操作したファイルを元の場所に戻すこともできます。
⑨	ローカルデータバックアップ	パソコンにあるファイルやフォルダを、日時や場所を記憶して バックアップ・復元できます。
⑩	Sync機能	Syncフォルダをパソコンにも作成し、内容を同期します。 ULTRA DRIVE全体の同期に設定を変更することもできます。
⑪	ショートカット機能	パソコン側に ULTRA DRIVE や ULTRA DRIVEの任意のフォ ルダへのショートカットを作成することができます。
⑫	コンテキストメニューからのULTRA DRIVE利 用	コンテキストメニュー（右ボタンメニュー）を使って、パソコ ンのフォルダやファイルをアップロードしたり、バックアップ したりできます。
⑬	プッシュ通知機能	ULTRA DRIVEの内容が変更された場合、その旨を通知します。
⑭	利用容量の確認	総量に対するファイルやフォルダの使用領域、履歴データ、ご み箱データが占める割合を確認できます。
⑮	新規テキストファイルの作成	アプリケーション内で新規テキストファイルを作成できます。
⑯	パスワード変更	ULTRA DRIVEにログインするパスワードを変更できます。

6.ファイル・フォルダのアップロード

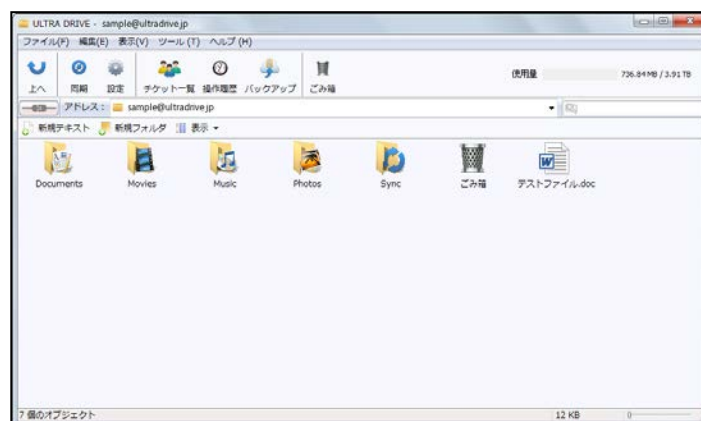
- ① アップロード先のフォルダを開き、パソコン上のファイルやフォルダをドラッグ・アンド・ドロップします。



- ② アップロード中には転送状態を確認できるウィンドウが表示されます。



- ③ アップロードが完了しました。



※ アップロードの注意点 1

アップロードできるファイルサイズの上限は 2GB です。

※ アップロードの注意点 2

ULTRA DRIVE にあるファイルやフォルダと

名前がアルファベットの大文字/小文字しか違いのないファイルやフォルダを

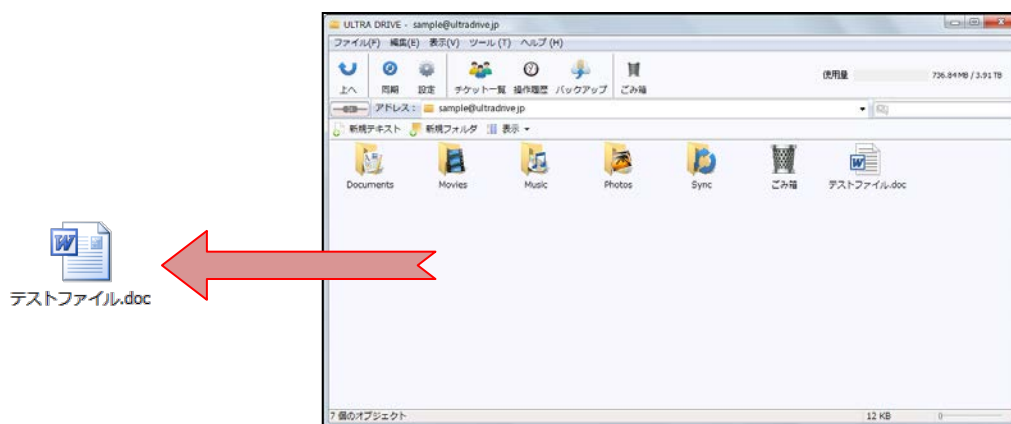
同じ場所へアップロードすることはサポートしていません。

例 1 : ファイル「TEST.txt」がある場所へ、ファイル「test.txt」をアップロード

例 2 : フォルダ「sample」がある場所へ、フォルダ「Sample」をアップロード

7.ファイルのダウンロード

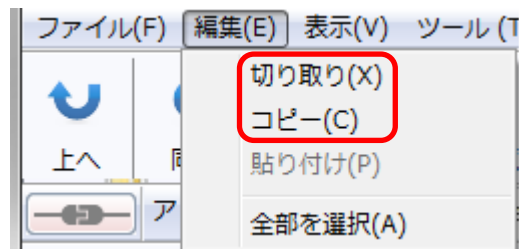
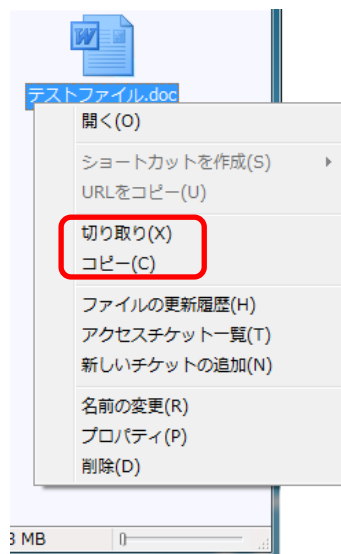
- ① ダウンロードしたいパソコン上のフォルダを開き、ULTRA DRIVE 上のファイルやフォルダをドラッグ・アンド・ドロップします。



8.ファイル・フォルダの移動とコピー

① 移動またはコピーさせたいファイルやフォルダを選び、以下のいずれかの操作をします。

- ・ コンテキストメニュー（右ボタンメニュー）から、移動の場合には「切り取り」、コピーの場合は「コピー」を選びます。（下図左）
- ・ 「編集」メニューから、移動の場合には「切り取り」、コピーの場合は「コピー」を選びます。（下図右）



②移動またはコピー先のフォルダを表示し、以下のいずれかの操作をします。

- ・ コンテキストメニュー（右ボタンメニュー）から、「貼り付け」を選びます。
- ・ 「編集」メニューから、「貼り付け」を選びます。

※ 「移動」の場合は元の場所からファイルは無くなり、移動先に保存されます。「コピー」の場合は元の場所にもファイルは残ります。

9. ファイル更新履歴の利用方法

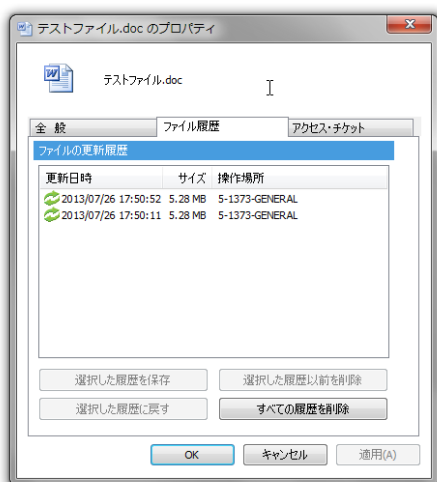
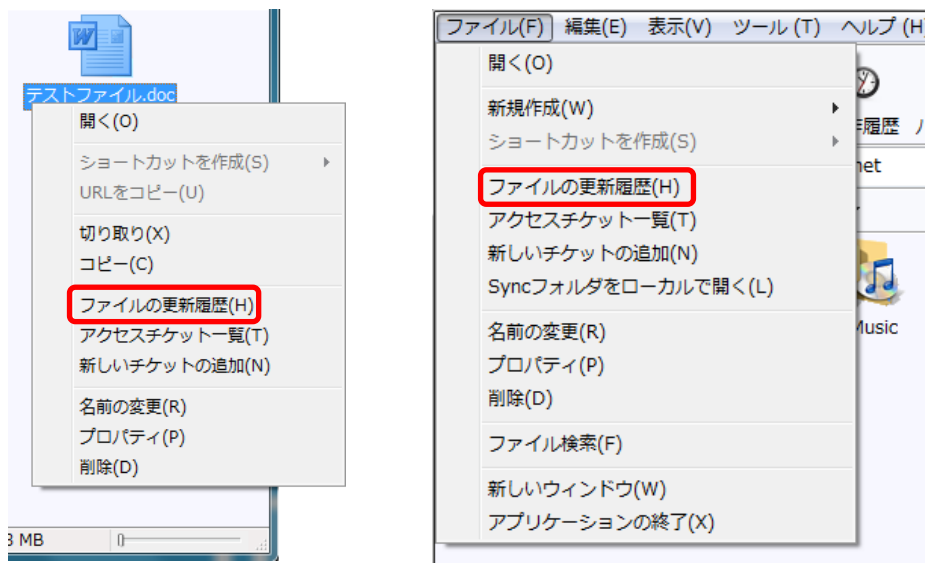
ULTRA DRIVE では上書きによるファイルの更新が、いつ、どこから行われたかを記録しているので、ユーザはファイル更新の履歴を確認し、上書きされる前のファイルに復元することができます。

記録の有無 および 記録する履歴数の変更は、⑩ファイル更新履歴の上限数変更 で変更できます。

① 更新履歴はファイルの「プロパティ」に保存されています。

以下のいずれかの方法で確認できます。

- ・ 対象とするファイルのコンテキストメニュー（右ボタンメニュー）から「ファイルの更新履歴」を選ぶ。（下図左）
- ・ 対象とするファイルを選択した状態で、「ファイル」メニュー→「ファイルの更新履歴」を選ぶ。（同右）



②プロパティの「ファイル履歴」のタブが開き、ファイルの更新履歴が確認できます。

«ファイル履歴機能一覧»

選択した履歴を保存	選択した履歴のバージョンでファイルをパソコンに保存します。
選択した履歴に戻す	現行のファイルを選択した履歴で上書きします。戻したバージョンより新しい履歴は自動的に削除されます。
選択した履歴以前を削除	選択した履歴より過去の履歴を削除します。
すべての履歴を削除	保存されている全ての履歴を削除します。

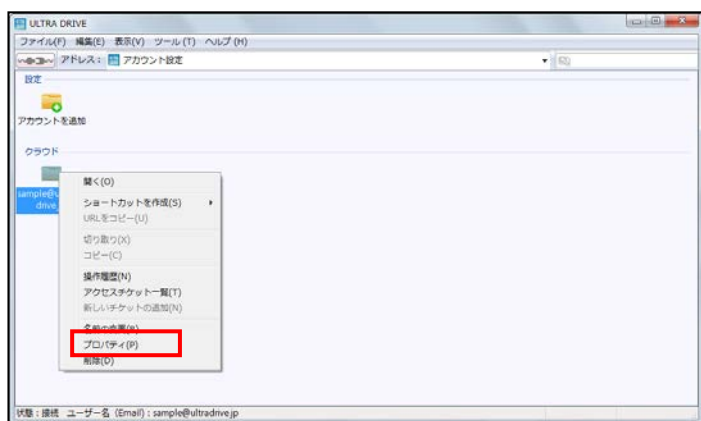
10. ファイル更新履歴の上限数変更

保存するファイルの更新履歴上限数を変更することができます。

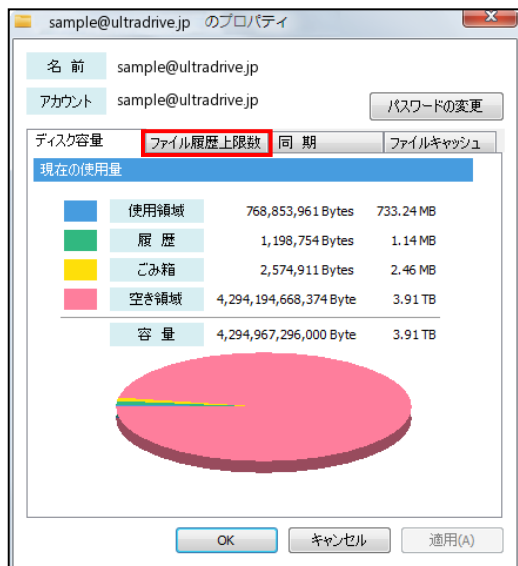
- ① ファイルのプロパティを参照します。以下のいずれかの方法で確認できます。



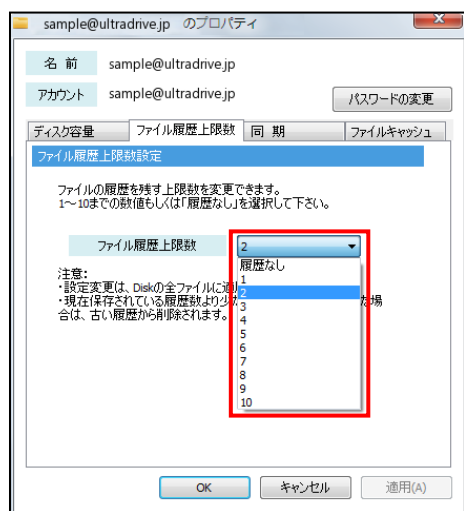
「設定」アイコンをクリックします。



ファイルの上でコンテキストメニュー（右ボタンメニュー）を表示し、「プロパティ」を選びます。



- ② 「プロパティ」で「ファイル履歴上限数」タブを選びます。



- ③ プルダウンメニューからファイルの上限数を選びます。

※ご注意 1

設定した更新履歴の上限数はそのアカウントに含まれるすべてのファイルに適用されます。

※ご注意 2

更新履歴の上限数を現在の設定より減らした場合、設定した上限数を超えるファイル更新履歴を持っていると、古いデータから順に削除され、設定した上限数の履歴数となります。

※ご注意 3

履歴データはアカウントが契約している ULTRA DRIVE 使用領域に保存されます。

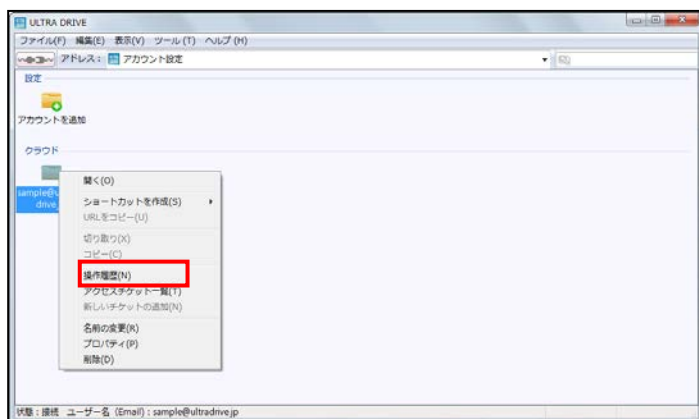
11. 操作履歴の確認

いつ、どのように操作されたかを確認することができます。

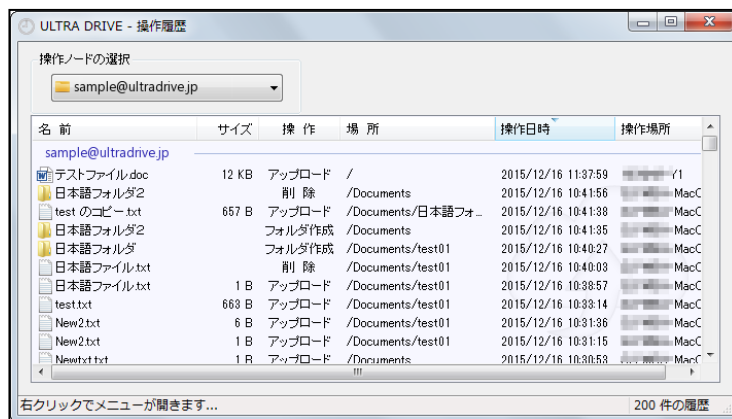
- ① 以下のいずれかの方法で操作履歴ウィンドウを表示します。



操作履歴アイコンをクリックします。



通知領域にある ULTRA DRIVE アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「操作履歴」を選択します。



- ② 選択中のアカウントの操作履歴が表示されます。

※ ご注意：複数の ULTRA DRIVE アカウントを登録している場合、ファイル表示中のアカウントの情報のみ表示されます。

《操作履歴で確認できる操作》

- ・ アップロード
- ・ フォルダ作成
- ・ ファイル/フォルダコピー
- ・ ファイル/フォルダ移動
- ・ ファイル/フォルダ削除
- ・ チケット発行
- ・ チケット削除
- ・ 履歴上限数変更
- ・ ファイル更新履歴削除
- ・ ファイル更新履歴を戻す
- ・ ファイルの完全削除
- ・ ファイルのリストア
- ・ パスワード変更

12. アクセスチケットの生成（フォルダ/ファイルの公開）

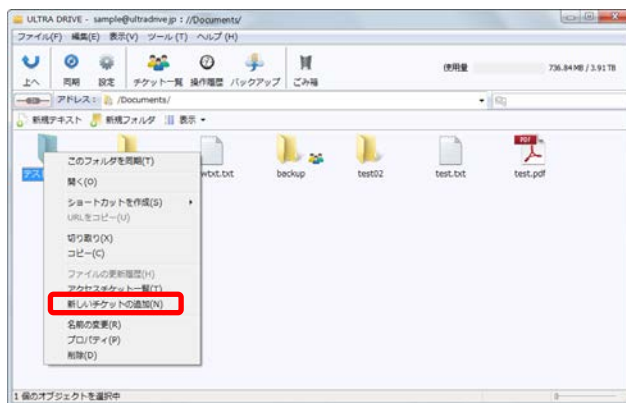
ULTRA DRIVE 上にあるフォルダ/ファイルを公開する Web ページを生成します。Web ページには、以下の制限を加えることができます。

「アクセスチケットの制限事項」

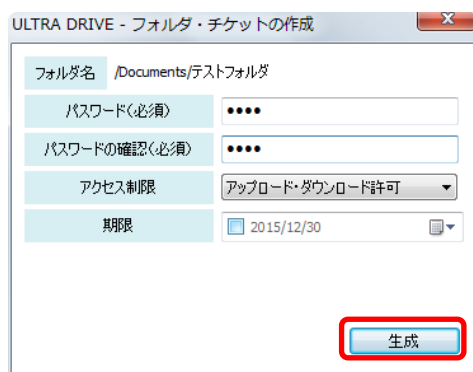
種別	概要	詳細
フォルダ	アクセス制限	アップロードのみ許可、ダウンロードのみ許可、両方を許可
	期限	カレンダーで公開を終了する日付を設定
	パスワード	Web ページにパスワードを設定 文字制限 1 文字以上 32 文字以下 以下の文字種が利用可能です。 abcdefghijklmnopqrstuvwxyzABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ1234567890
ファイル	ダウンロード上限数	制限なし、1～ 10 回、20 回、30 回、40 回、50 回
	期限	カレンダーで公開を終了する日付を指定
	パスワード	Web ページにパスワードを設定 文字制限 1 文字以上 32 文字以下 以下の文字種が利用可能です。 abcdefghijklmnopqrstuvwxyzABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ1234567890

※ 公開されたフォルダやファイルには、 このようなアイコンが付与されます。

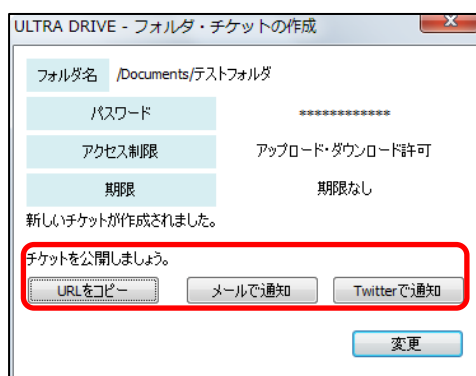
12.1. フォルダの公開



- ① 公開したいフォルダを右クリックします。コンテキストメニューから「新しいチケットの追加」をクリックします。



- ② 制限を加える画面が表示されます。設定後、「生成」をクリックします。

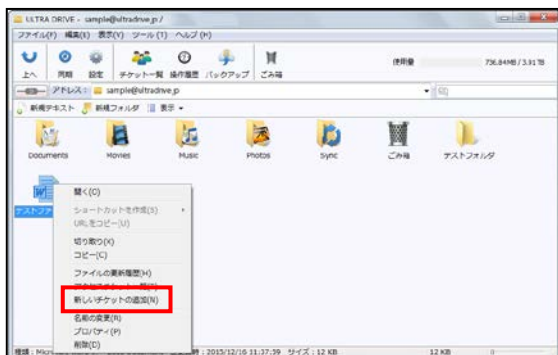


- ③ フォルダが公開されました。

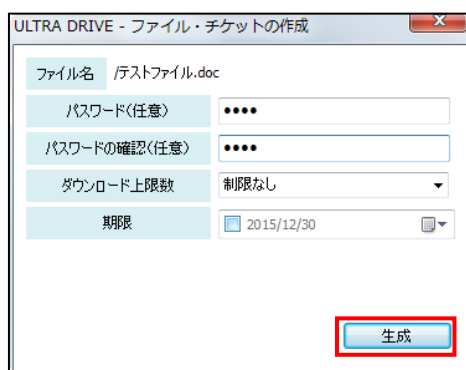
- ・ URL をコピー
- ・ URL をメールで通知
- ・ URL を Twitter で通知

いずれかの対応を選択できます。

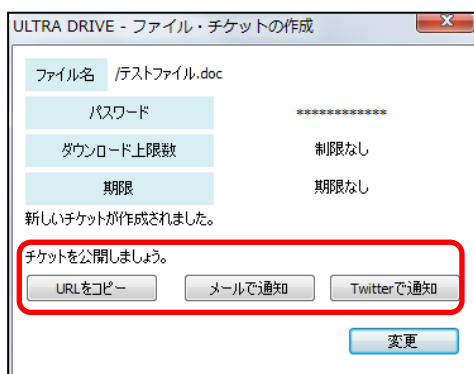
12.2. ファイルの公開



- ① 公開したいファイルを右クリックします。コンテキストメニューから「新しいチケットの追加」をクリックします。



- ② 制限を加える画面が表示されます。設定後、「生成」をクリックします。



- ③ ファイルが公開されました。

- URL をコピー
- URL をメールで通知
- URL を Twitter で通知

いずれかの対応を選択できます。

12.3. アクセスチケットを用いて ULTRA DRIVE にアクセスする方法

- ① 公開されたフォルダの URL にアクセスすると、下記の画面が表示されます。
パスワードを入力すると、公開されたフォルダにアクセスできます。 アップロードを許可している場合は、「アップロード」「新規フォルダ」「新規テキスト」アイコンが表示されています。

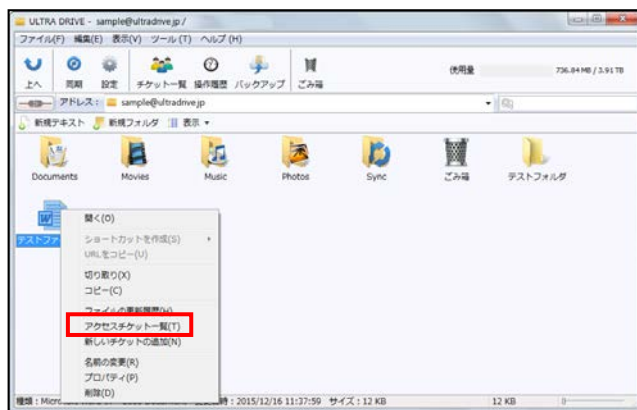


13. アクセスチケットの管理（フォルダ/ファイル公開の管理）

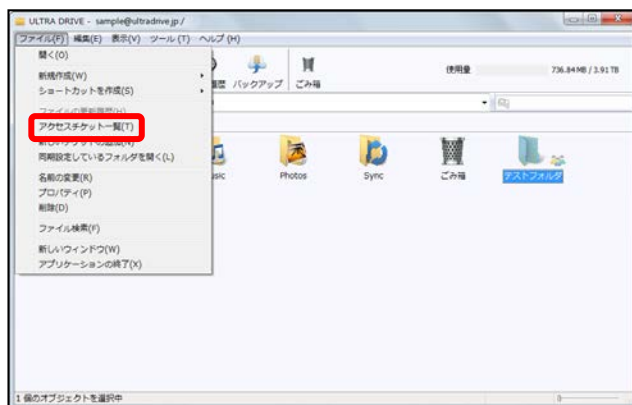
一度生成したアクセスチケット（フォルダやファイルの公開）は、公開を停止したり、制限を変更したりすることができます。

13.1. フォルダやファイル単位のアクセスチケット管理

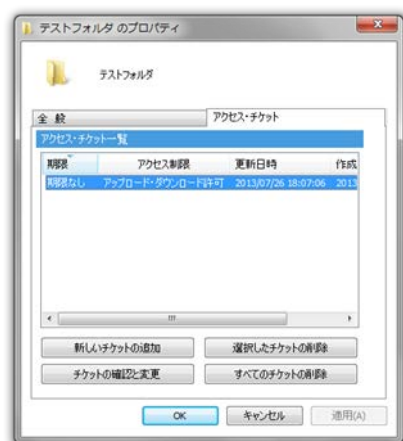
特定のフォルダやファイルに設定したアクセスチケットを表示する場合には、以下のいずれかの方法で「プロパティ」の「アクセス・チケット」タブを表示します。



管理したいフォルダ（またはファイル）を右クリックし、コンテキストメニューを表示します。「アクセスチケット一覧」をクリックします。



管理したいフォルダ（またはファイル）をクリックし「ファイル」メニューもしくは「ツール」メニュー→「アクセスチケット一覧」をクリックします。



プロパティの「アクセス・チケット」タブが表示されます。アクセスチケットを選択して、公開設定内容を変更することが可能です。

《設定項目》

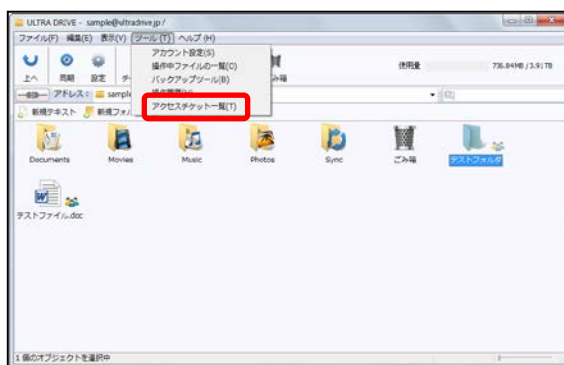
新しいチケットの追加	異なる制限を設けた、新しい URL で公開します。
チケットの確認と変更	既存の公開制限の設定を変更します。
選択したチケットの削除	公開設定を削除します。
全てのチケットの削除	全ての公開設定を削除します。

13.2. フォルダやファイルに設定済アクセスチケットの一元管理

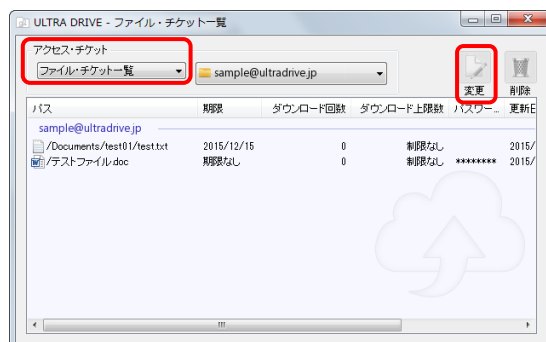
フォルダやファイルに設定したアクセスチケットの一覧表示する場合には、以下のいずれかの操作をします。



「チケット一覧」アイコンをクリックします。



もしくは、「ツール」から「アクセスチケット一覧」をクリックします。



公開中のファイルとフォルダが一覧で表示されます。ファイル/フォルダの切り替えは画面左上のプルダウンメニューで行います。

変更を行う場合には、以下のいずれかの方法で、設定の修正を行います。

- ・ 対象をダブルクリックします
- ・ 対象をクリックし、画面右上の「変更」をクリックします。
- ・ 対象を右クリックし、コンテキストメニューの「チケットの確認と更新」をクリックします。

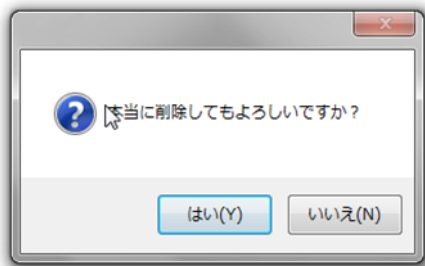
14. ごみ箱の利用

ULTRA DRIVE でも、WindowsOS と同様にごみ箱があります。 フォルダやファイルを削除すると、一旦ごみ箱に移動され、ごみ箱を空にすることでファイルを完全消去します。

«ごみ箱を利用したファイル削除»

① 削除したいフォルダやファイルをいずれかの方法で削除します。

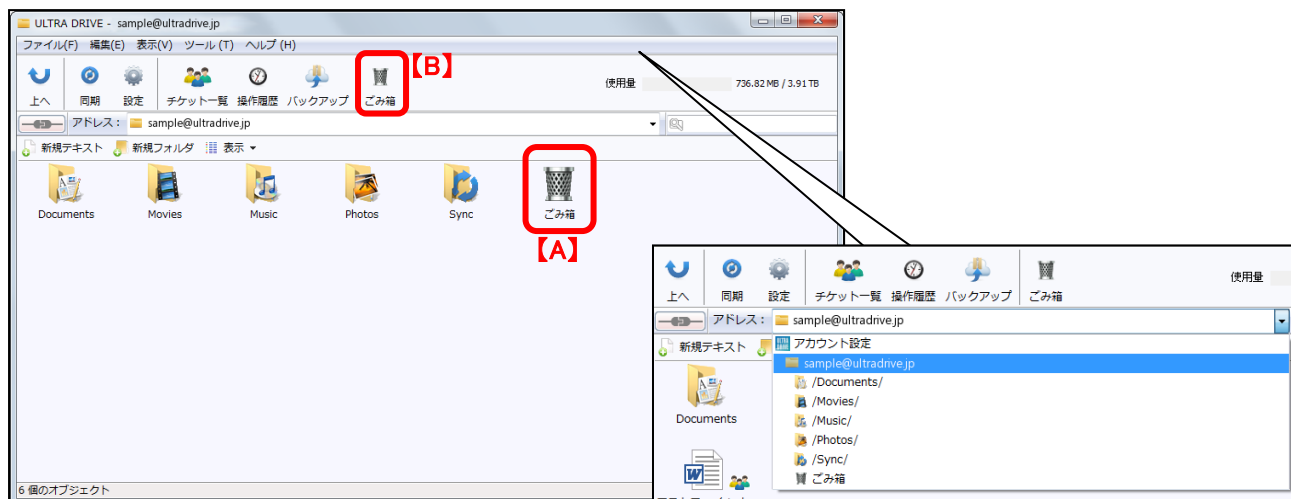
- ・ ごみ箱アイコンへドラッグ・アンド・ドロップ
- ・ ファイルやフォルダを選択して Delete キーを押す
- ・ 右クリックしてコンテキストメニューから「削除」を選択



② 確認ダイアログボックスが表示されるので、削除してよいときには「はい」を選びます。

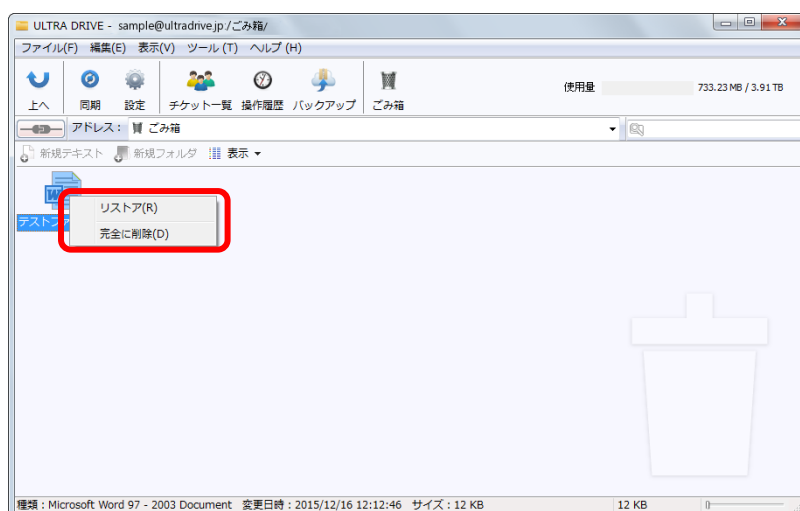
「ごみ箱機能の利用方法」

① ごみ箱の中身を見る際には、以下のいずれかの方法を取ります。



- ・ フォルダ/ファイル一覧にあるごみ箱アイコンをダブルクリックする【A】
- ・ メニューバーにあるごみ箱アイコンをクリックする【B】
- ・ アドレス欄のプルダウンメニューからごみ箱を選択する【C】

② ごみ箱内のフォルダやファイルを選択、右ボタンクリックをして、コンテキストメニューを表示させます。



«ごみ箱の機能»

ファイル/フォルダのコンテキストメニュー（右ボタンメニュー）	
リストア	ごみ箱にあるファイル/フォルダを削除時点で保存されていたフォルダに復元します。 ※ご注意 1 ファイルアップロード時に、ごみ箱内に同じファイルが存在する場合は、ごみ箱内の同名ファイルが消去され、新しくアップロードした同名ファイルが保存されます。ごみ箱内にあった同名ファイルの内容に復元したい場合は、更新履歴から一世代前のバージョンに戻してください。<u>更新履歴の上限数をゼロにしている場合には、ごみ箱内のデータと同名のファイルを新たにアップロードすると、ごみ箱内にあったデータは完全に削除されますのでご注意ください。</u> ※ご注意 2 ごみ箱内データの復元先フォルダ内に、名前の変更によって同一名のフォルダ/ファイルが存在する状態になった場合、ごみ箱内の同一名フォルダ/ファイルのリストアを行うと、ごみ箱内から<u>復元したフォルダ/ファイル名の先頭に copy- が付与されます。</u>
完全に削除	データを完全に削除します。 ※一度完全に削除したデータは復元できません。
ごみ箱のコンテキストメニュー（右ボタンメニュー）	
ごみ箱を空にする	ごみ箱内のデータをすべて完全に削除します。 ※復元はできません。

15. ローカルデータのバックアップ

バックアップ機能では、対象となるフォルダやファイルをあらかじめ圧縮して ULTRA DRIVE にアップロードします。バックアップデータにはパソコンのどのフォルダから、いつ、バックアップしたものなのかの情報が保持されています。

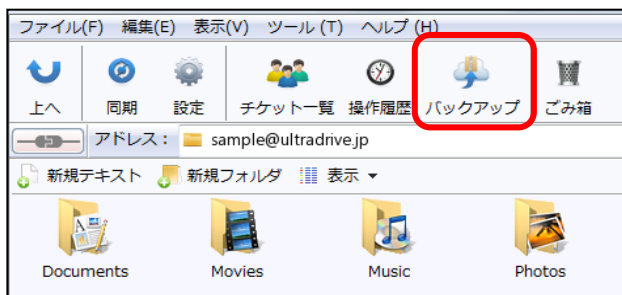
《バックアップツールの機能》

バックアップツール	バックアップ項目のステータスが確認できます。
新規手動バックアップ	ユーザが手動で特定のフォルダをバックアップする
バックアップデータの復元	バックアップしたデータを復元する
バックアップデータ削除	バックアップしておいたデータを削除する

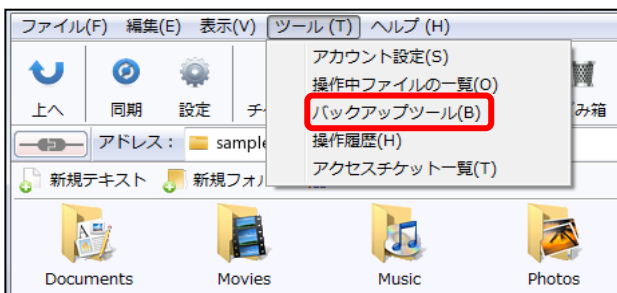
15.1. バックアップツール

バックアップツールのトップ画面ではバックアップのステータスが確認できます。

①以下のいずれかの方法で、バックアップツールを起動します。

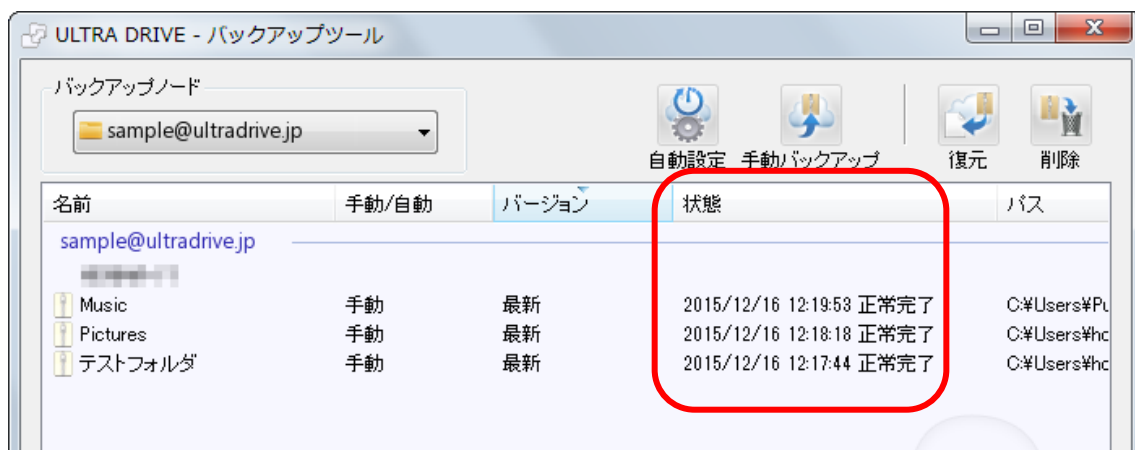


メニューバーの「バックアップツール」アイコンをクリックします。



「ツール」→「バックアップツール」を選びます。

②バックアップツール画面には、バックアップ済みデータが一覧表示されます。



«状態»欄のステータスには以下のものがあります。

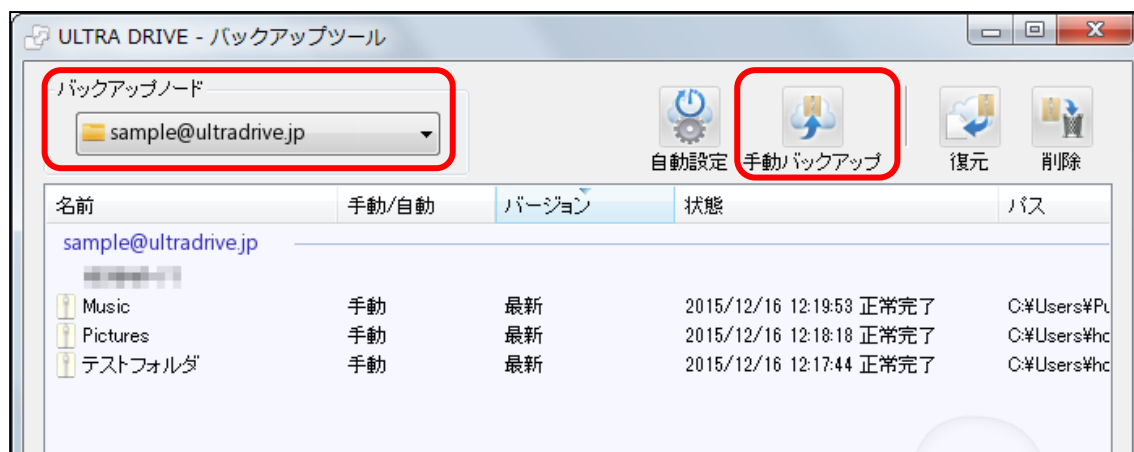
表示項目	事象
年/月/日 時:分:秒 正常完了	バックアップ処理が正しく完了したことを示しています。
年/月/日 時:分:秒 異常終了※1 異常終了 操作に失敗しました	バックアップ処理が正しく完了していないことを示しています。 ネットワークに接続できずバックアップファイルのアップロードに失敗した場合に表示されます。
年/月/日 時:分:秒 異常終了※1 サイズが規定数を超過しました	バックアップ処理が正しく完了していないことを示しています。 圧縮直後のサイズが規定の 2GB を超過した場合に表示されます。
年/月/日 時:分:秒 異常終了※1 中止	バックアップ処理が正しく完了していないことを示しています。 バックアップ処理中にアプリケーションを強制的に終了した場合に表示されます。
年/月/日 時:分:秒 異常終了※1 指定先の名前が参照できません	バックアップ処理が正しく完了していないことを示しています。 バックアップ設定したファイルの名前を変更した場合に表示されます。
準備中	バックアップデータのアップロード前の処理を行っていることを示しています。
アップロード中	バックアップデータを ULTRA DRIVE へアップロードしている最中であることを示しています。

※1.自動バックアップ設定に基づいて実施されたバックアップ動作が異常終了した結果の表示は、以下のいずれかの操作を行うと、上記の一覧画面から削除されます。

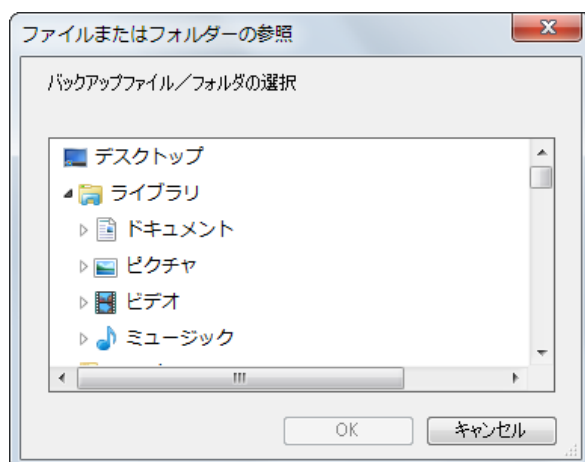
- ① その動作の元となった自動バックアップ設定を削除する
- ② その動作の元となった自動バックアップ設定が正常完了する

15.2. 手動バックアップ

- ① バックアップツールを起動します。
- ② 「バックアップノード」欄でアカウント名を選び、右上の「手動バックアップ」アイコンをクリックします。



- ③ 「ファイルまたはフォルダの参照」画面が起動します。バックアップするフォルダ/ファイルを選びます。



- ※ 同じファイル/フォルダのバックアップは上書きではなく、バックアップデータが追加されます。
- ※ 原則としてシステムフォルダはバックアップ対象にできません。(詳細は P37 を参照)

※ **ご注意：1つのバックアップファイルサイズの上限は2GBです。**

バックアップ実行時に、圧縮後容量が2GBを超えると警告が出て、バックアップが停止します。

※ **ご注意2：バックアップ対象にできないデータ**

1. Root そのもの（例：c:¥, e:¥）
2. ¥Windows 以下のフォルダやファイル群
※そのフォルダがドライブの直下にある場合、属するドライブの違いにかかわらず、同様に処理します。
例：C:¥Windows、D:¥Windows の両方がある場合、同じく処理します。
3. ¥Program Files, ¥Program Files(x86) 以下のフォルダやファイル群
※上記の「2」と同じく処理します。
4. Windows OS で system folder と判断されるもの
5. ネットワークドライブのファイルやフォルダ
6. ショートカット

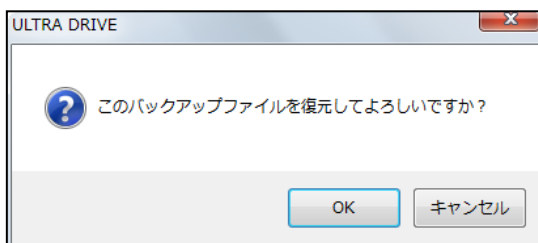
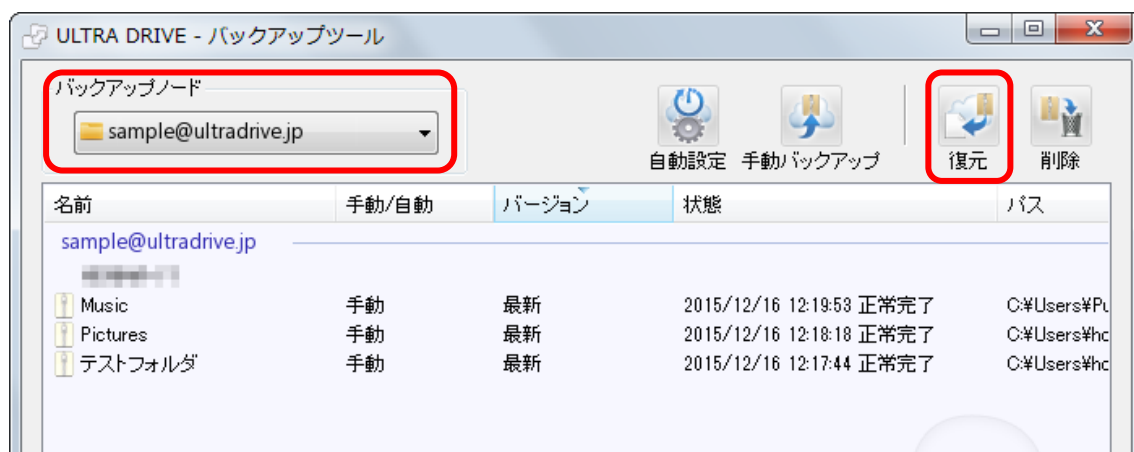
ただし、以下のフォルダはバックアップ対象として選択可能です。

例外：

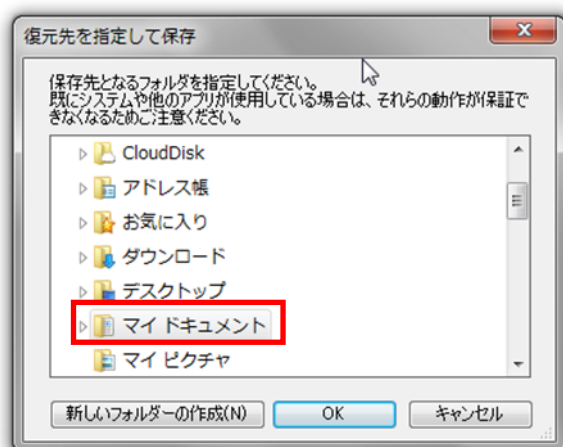
「パブリックのドキュメント」	「マイミュージック」
「パブリックのミュージック」	「マイビデオ」
「パブリックのピクチャ」	「マイピクチャ」
「パブリックのビデオ」	「お気に入り」
「マイドキュメント」	「アドレス帳」

15.3. バックアップデータの復元

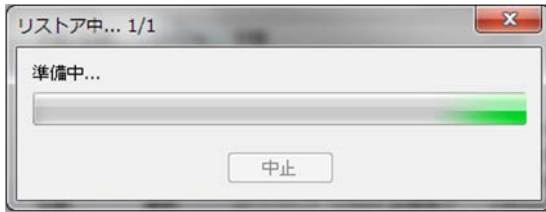
- ① 「バックアップノード」欄でアカウント名を選び、バックアップデータ一覧から復元に用いるバックアップデータを選んで、右上の「バックアップデータの「復元」アイコンをクリックします。



- ② 復元の確認ダイアログボックスが表示されるので、よければ「OK」を選びます。



- ③ 復元先の確認ウィンドウが起動します。バックアップ元のフォルダがある場合は、そのフォルダがあらかじめ選択された状態になっています。



④ バックアップデータを復元しています。

⑤ 復元したデータは、バックアップ元フォルダの中に以下のような名称のフォルダ名を作成し、保存されます。

※ フォルダを復元する場合

<バックアップフォルダ名_><yyyymmdd.hh>

(例 : Favorites_2013-03-26.06、お気に入り (Favorites) フォルダを 2013 年 3 月 26 日 6 時にバックアップしたデータという意味)

※ ファイルを復元する場合

<バックアップファイル名_><yyyymmdd.hh>.<拡張子>

(例 : あいうえお_2013-04-01.11.doc)

※ 復元時、復元先に既に同じファイルが復元されていた場合

<バックアップファイル名_><yyyymmdd.hh>(1).<拡張子>

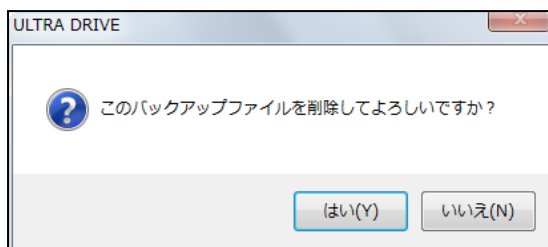
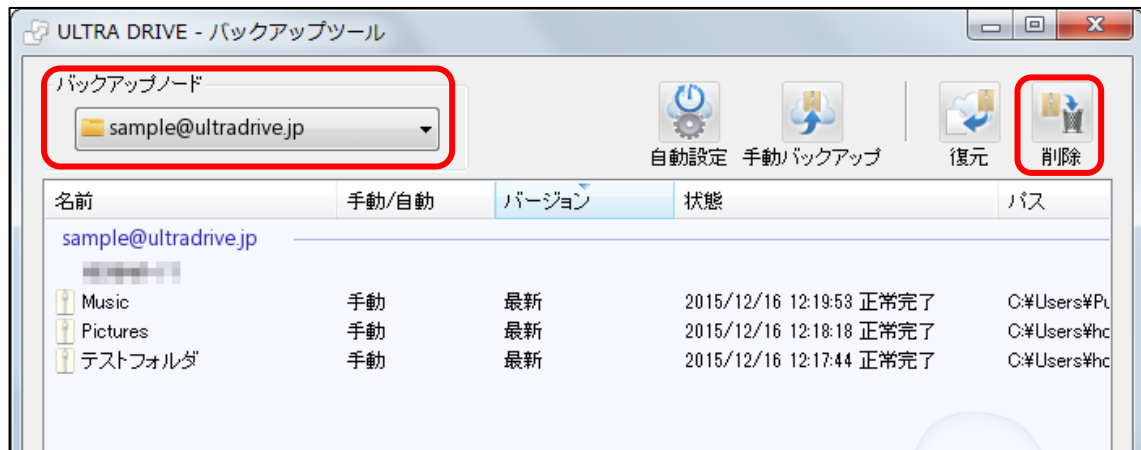
(例 : あいうえお_2013-04-01.11(1).doc)

※ 復元時、もともと存在するファイル名と同一名が指定された場合

「 <ファイル名>は既に存在します。ファイル名を変更してください」 と表示され、ボタンは「OK」のみとなります

15.4. バックアップデータの削除

- ① 「バックアップノード」欄でアカウント名を選び、バックアップデータ一覧から削除するバックアップデータを選んで、右上の「削除」アイコンをクリックします。



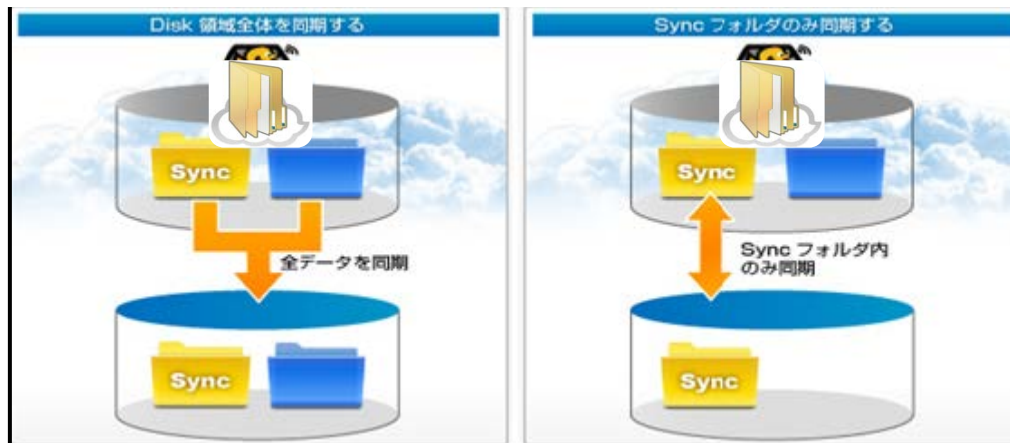
- ② 削除の確認ダイアログボックスが起動するので、よければ「はい」をクリックします。

- ③ 削除が成功すると、リストからバックアップデータが消去されます。

16. SYNC（同期）機能

ULTRA DRIVE は Sync フォルダのみを同期、Disk 全体を同期という 2 つの同期方法があります。ご用途に応じて使い分けが可能です。

（Sync 機能概念図）

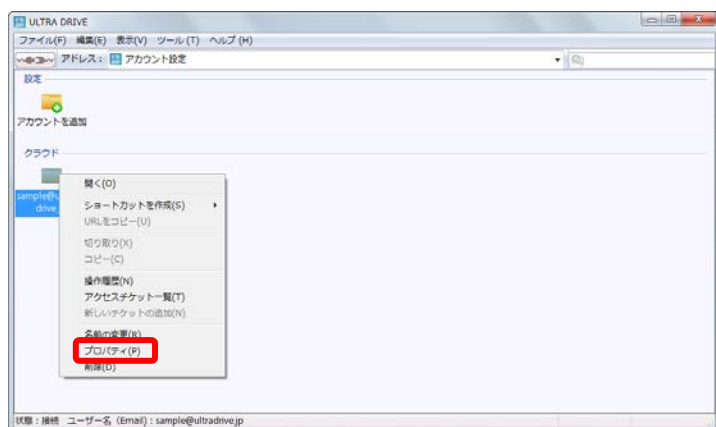


16.1. 同期設定の確認

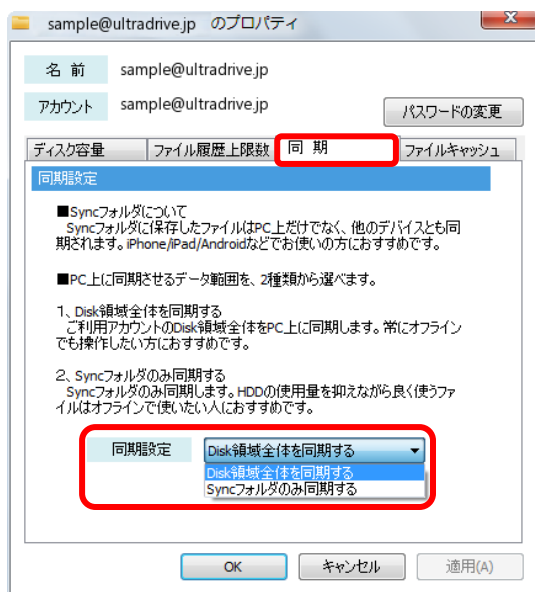
以下いずれかの方法でアカウントの「プロパティ」を表示します。



「設定」ボタンをクリックします。



もしくは、アカウント管理画面でメールアドレスのアイコンを右クリックしてコンテキストメニューから「プロパティ」をクリックします。



プロパティ画面の「同期」タブで同期設定を確認・変更します。

《同期設定》

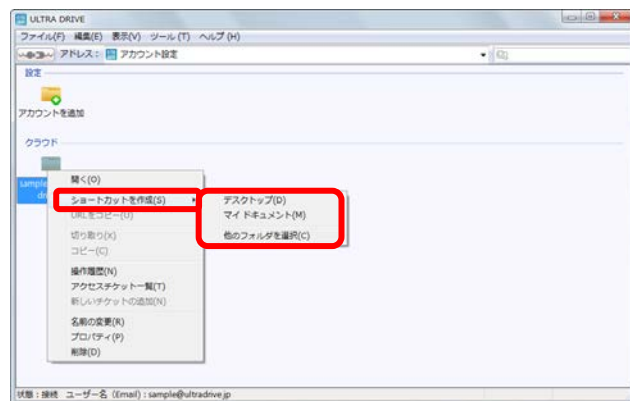
- Sync フォルダのみ同期する
- Disk 全体を同期



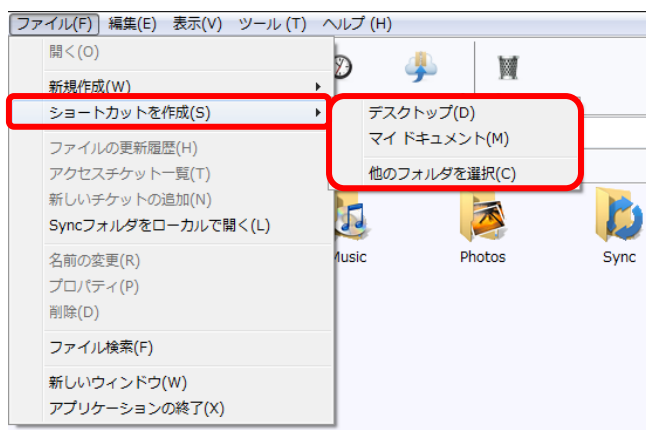
同期するには、メニューバーの「同期」ボタンをクリックします。

17. ショートカット機能

以下のいずれかの方法で、Windows 上に ULTRA DRIVE の特定フォルダへのショートカットを作成することができます。

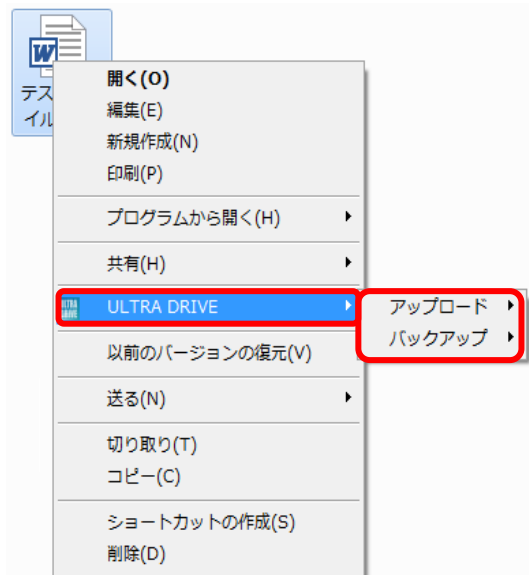


ULTRA DRIVE のフォルダやアカウントアイコンの上で右ボタンをクリックし、コンテキストメニューを表示します。「ショートカットを作成」から、Windows のデスクトップやマイドキュメント、任意のフォルダに ULTRA DRIVE にアップロードできるショートカットを作成できます。



ULTRA DRIVE のフォルダやアカウントアイコンを選び、「ファイル」メニューの「ショートカットを作成」から任意の場所を選択します。

- ※ ショートカットは、 このアイコンで現れます。
- ※ ショートカットの名称は「フォルダ名（メールアドレス）」となります。

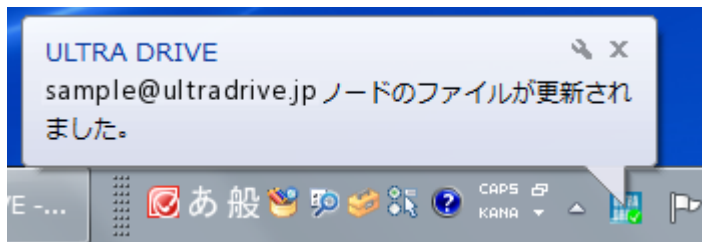


Windows 上のファイルやフォルダの上で右ボタンをクリックし、表示されるコンテキストメニューから ULTRA DRIVE に「アップロード」や「バックアップ」することができます。

18. プッシュ通知機能

複数人でご利用中の場合には、一人がファイルの操作（アップロード、上書き、削除）をすれば、関係者全員に通知されます。

更新があった場合、タスクトレイに以下のような通知があります。

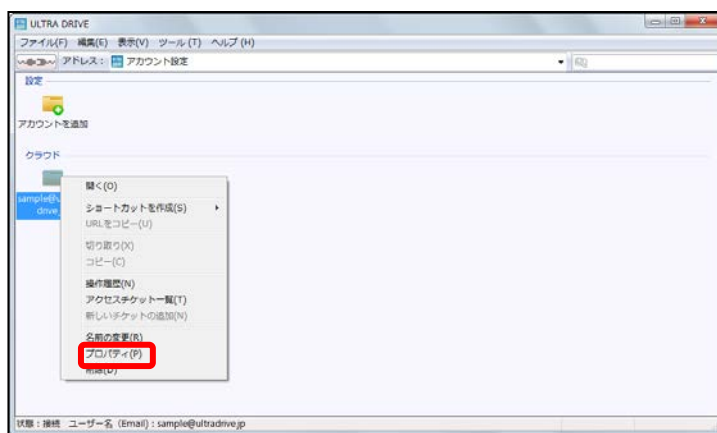


19. 利用容量の確認

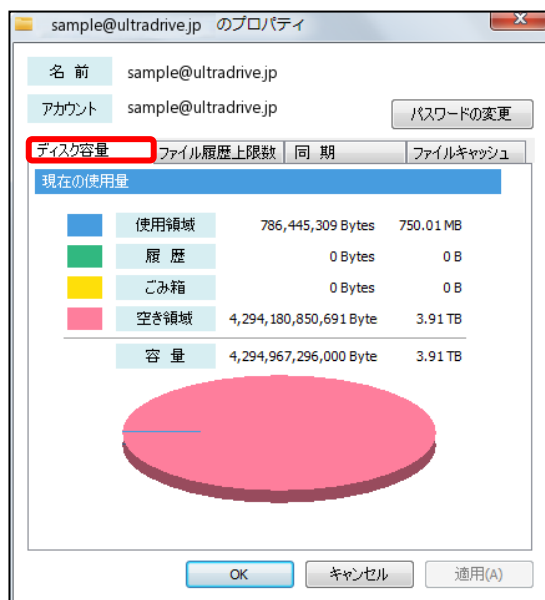
現在 ULTRA DRIVE をどれだけ、どのように使っているのかを確認できます。以下いずれかの方法でアカウントの「プロパティ」を表示します。



「設定」ボタンをクリックします。



もしくは、アカウント管理画面でメールアドレスのアイコンを右クリックしてコンテキストメニューから「プロパティ」をクリックします。



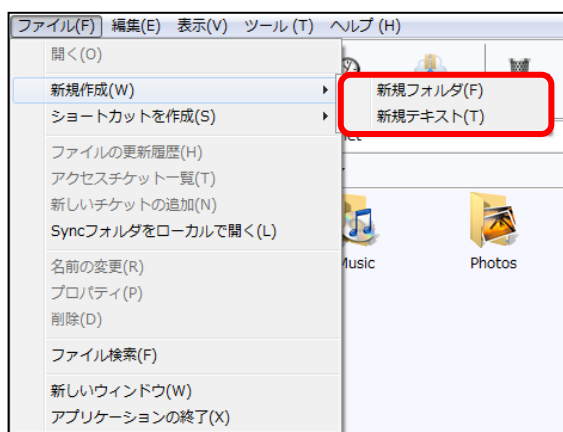
「プロパティ」で「ディスク容量」タブを選びます。

20. 新規ファイルの作成と編集（テキストファイル）

ULTRA DRIVE 上でテキストファイルを作成し、編集も行えます。以下いずれかの方法でアカウントの「プロパティ」を表示します。



ULTRA DRIVE 上の空白で右クリックし「新規作成」から「新規テキスト」を選択します。



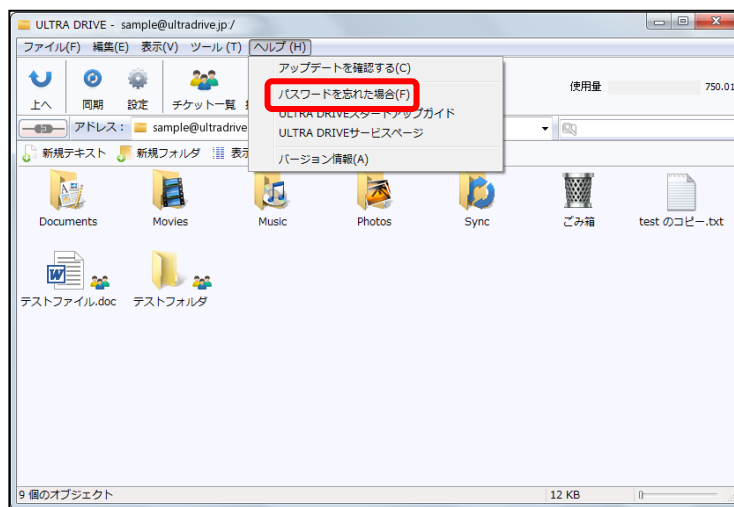
画面右上の「ファイル」の「新規作成」から「新規テキスト」を選択します

ULTRA DRIVE 上に新規テキストファイルができるので、名前を付けて保存します。保存されたテキストファイルをダブルクリックするとパソコンのメモ帳で編集できます。

21. パスワードの変更

パスワードを忘れた際に、特定の URL からパスワードが変更できます。

- ① 「ヘルプ」メニューから「パスワードを忘れた場合」をクリック



- ② ご利用中の ULTRA DRIVE アカウント URL を記入します。記入したメールアドレスにパスワードの変更用 URL を含むメールが送られます。メールが届かない場合には、ご契約の事業者にお問い合わせください。

A screenshot of the ULTRA DRIVE password reset URL notification form. The form has a blue header with the 'ULTRA DRIVE' logo. Below the header, there is a section titled 'パスワードリセットURL通知'. The text below the title reads: 'アカウント名として登録されたメールアドレス宛に、パスワード変更URLを記載したメールを送信します。お客様のメールアドレスを入力してください。'. There is a text input field for the email address, labeled 'メールアドレス (アカウント名)'. Below the input field is a '送信' (Send) button.

22. 仕様に関してのご注意事項

22.1. 拡張子がないファイルについて

- (1) 拡張子がないファイルは、ULTRA DRIVE のシステム上はフォルダと同様に扱われます。以下のような操作を行う際にこの仕様による影響が出ます。
- ・ ファイル名を変更しようとした際に、同じフォルダ内に存在するフォルダと同じ名称を、ファイルに設定することはできません。
 - ・ アップロード先のフォルダ内に、アップロードするフォルダと同一名の拡張子がないファイルが存在する場合、もしくは、アップロードするファイルと同一名のフォルダが存在する場合、「ファイル/フォルダを上書きしてよろしいですか。」という確認ダイアログボックスが表示されます。
 - ・ ごみ箱からの復元先に、復元ファイルと同一名のフォルダがある場合、復元ファイルの先頭に copy- という文字列が付与されます。復元フォルダと同一名のファイルがある場合、復元ファイルの先頭に copy- という文字列が付与されます。

22.2. バックアップ機能について

- (1) Windows 上でコンテキストメニューから「バックアップ」を選択した際に起動したバックアップツールウィンドウは、右上にある「閉じる」ボタンのみで閉じられます。（このバックアップウィンドウは独立して起動しているので、ULTRA DRIVE サービスのメインウィンドウを閉じてても、起動したままになります）
- (2) バックアップ開始前に圧縮を行います。そのため通常のアップロードよりも時間を要する場合があります。
- (3) 半角英数字、及び日本語以外の文字を含むファイル名（例：簡体字、繁体字、ハングル等）は正しく処理できません。
- (4) バックアップツールの起動画面に表示されるバックアップ一覧情報はすべて表示するまでに時間がかかる場合があります。

22.3. プロキシ サーバーが設定されている場合

- (1) Internet Explorer のインターネット オプション画面以外で、プロキシ サーバーに関する設定を行っている場合、Windows Client での通信が正しく動作しない可能性があります。

23. 既知の問題

※ 以下の操作をした場合、「ノードを切り替える前に、他のウィンドウを閉じてください。」というメッセージが表示され、アカウントアイコンの削除に失敗します。

- 全てのウィンドウを閉じた後に、デスクトップアイコンからクライアントを起動した場合。
- 全てのウィンドウを閉じた後に、スタートメニューからクライアントを起動した場合。
- ただし、全てのウィンドウを閉じた後に、タスクトレイアイコンからクライアントを起動した場合はアカウントアイコンを削除することが可能です。
- 停止したアカウントが登録されている場合、Client 起動時にパスワードを要求されます。
- ご利用環境によってダイアログボックス内でのフォルダ名やファイル名の表示に乱れが生じる場合がございます。

以上